

桃陽総合支援学校 学校概要

病気により入院療養している子どもが治療を受けながら安心して教育が受けられるように京都市が設置している総合支援学校（病弱教育）です。*京都市では特別支援学校の名称を「総合支援学校」としています

【3つの教育部門】

本 校	京都市桃陽病院
分 教 室	京都大学医学部附属病院 京都府立医科大学附属病院 京都第二赤十字病院 国立病院機構京都医療センター 京都市立病院
訪問教育	分教室のない病院へ入院した場合

小児がん拠点病院

それぞれに小・中学部を設置

情報技術の活用に関する実証研究

- ◆ 平成23年度～平成25年度 文部科学省・総務省指定
「学びのイノベーション事業」「フューチャースクール推進事業」実証校
2つの小児がん拠点病院に京都市教育系ネットワークを導入
- ◆ 平成26年度～平成28年度 京都市教育委員会研究指定
「病弱特別支援教育におけるICTの効果的活用研究」
- ◆ 平成28～30年度文部科学省委託
「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」
- ◆ 平成25～令和2年度 東京大学先端科学技術センター・ソフトバンク
「魔法のプロジェクト」 協力校
- ◆ 令和元年度文部科学省委託
「高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業」
- ◆ 令和2年度文部科学省委託
「高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業」



ベッドサイドへ配信

入院する高校生を支える学習支援

平成27年4月、学校教育法施行規則の改正。

「高等学校は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる（第八十八条の二）」

分教室の中学3年生

院内受験で高校受験に挑戦！見事合格！退院できず。
高校生生活のスタートは病院のベッド。
進級・単位修得への不安と戸惑い。

桃陽総合支援学校

入院する高校生の学習支援の必要性を考える契機
センター的機能を活かし、地域支援に位置づける。

小児がんにかかった高校生が 喪失するもの



小児がんにかかった高校生が、「**高校生の自分**」をあきらめず、**治療を受けられる環境の整備**が求められている。

厚労省 がん対策基本法 (AYA世代の教育)

文科省 平成27年 学校教育法施行規則の改正

関係者の声



「普通にしたい。留年したくない。高校と繋がってほしい。」
勉強する。部活をする。友達と遊ぶ。

「学校の事は気にせず、治療に専念したら良いよ！」 該当生徒には一番辛い言葉



●治療に専念するほうが良い。授業配信で理解は深まらない。機材接続など指導者の負担になる。

【病気療養生徒を支えた経験がある】

○校内の協力体制が図れ、心理的支援、学習支援に前向きである。



【小児科】○生徒が望むのであれば、高校からの配信は、厳しい治療に向かう生徒の心理の安定に有効である。教育現場と連携を図り、治療を進めることは有効。

【小児科以外】●主治医との連携が図りにくい。病棟の理解が得にくい。学習環境が整えにくい



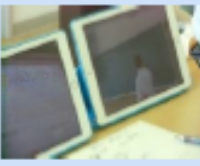

同時配信授業の実績 1

在籍高校・学年(年度)入院科	配信授業概要	出席認定等
①京都市立A高校3年生(H29) 小児科	同時双方向配信。	○
②京都府立B高校1年生(H29) 小児科	同時双方向配信。留年決意。配信により復学希望。	
③京都府立C高校1年生(H29) 小児科	同時双方向配信。 他府県転院病院へも配信	外泊治療で出席日数確保
④京都市立D高校1年生(H30) 小児・整形	同時双方向配信。(再入院)他府県病院へも配信	京都市内病院○ 他府県病院×
⑤京都府立E高校1年生(H30) 移植	同時双方向配信。	
⑥京都私立F高校3年生(R元) 小児科	オンデマンド型 (授業同時配信)	○
⑦京都市立G高校1年生(R元) 小児・循環	同時双方向配信。退院後、在宅治療中。同時配信中	病院 ○ 在宅 ×
⑧京都府立H高校2年生(R元) 小児科	同時双方向配信。	○
⑨京都府立J高校3年生(R元) 整形	同時双方向配信。	
⑩京都市立K高校1年生(R元) 神経内科	同時双方向配信	○

同時配信授業の実績 2

在籍高校・学年(年度)入院科	配信授業概要	出席認定等
⑪滋賀県私立高校1年(R2)小児科 血液内科	同時双方向配信。	○
⑫大阪私立高校(R2)小児科	同時双方向配信。	○
⑬京都府立支援学校(R2)小児科	週1日1時間の双方向配信。(週2日, 当校の学習会に参加)	留年にはならない
⑭京都府立高校3年(R2)血液内科	同時双方向配信。	○

配 信 授 業 使 用 機 材 例

	高 校 側	病 院 側
配 受 信 機 材	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・WEBカメラ ・スピーカーマイク ・リモートカメラ ・プレゼンスロボ   <p>板書を左右から配信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・ノートPC ・プリンター (ダイレクトプリンター 直接送信可)  
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>※配信方法や視聴側の見えやすさにより選択している。</p> </div>		
L A N 環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・校内無線 ・モバイルルーター 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市教育系ネットワーク ・モバイルルーター
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>※モバイルルーター使用时，費用がかかる。 現在桃陽総合より機材貸与</p> </div>		

遠隔教育の様子



【板書全体を見たい】
2台のタブレットを使って板書を見ている。



【授業プリントの送受信】
「あっ！僕そのプリントありません！」
「僕送ったげる！JPEGでいい？」
「いいよ！」
「きた！ありがとう！」



【双方向の授業】
「〇〇君が読んでくれるから」「わかりました！」

【高校側の機材の設置】
先生と受信生徒の状況を
考えて設置している。





病室内
京都市教育系ネットワーク

高等学校側ネットワーク

安定した
通信環境

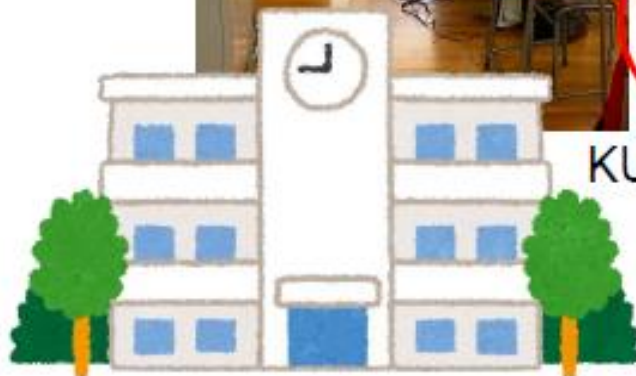


ダイレクト
プリンター
で授業プ
リントを配
布

R1より家庭への配信も可となった



時間割をつけ生徒たちが当該生徒の移動教室を支援する

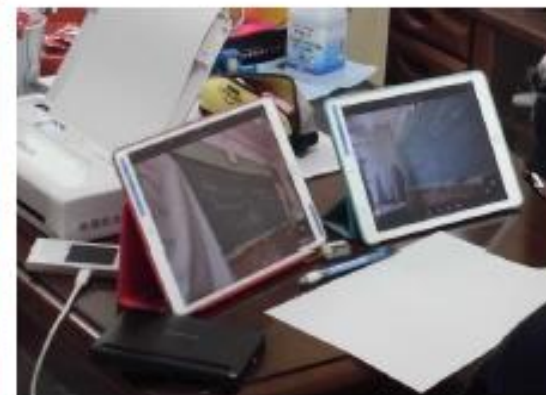


KUBIロボットを利用して配信



板書を左右から配信

「育」支援センター桃陽：
機材貸出。病院側でのサポート。



高校生支援実施までのフロー図

当該生徒・保護者

当該高校

① 入院中の学習支援の希望の聴き取り

医療機関
・主治医
・病棟師長
・医療SW

③ 教育相談
学習支援の紹介

⑥ 連携・支援
・授業視聴
・心理的支援

④ 相談

校長間相談
・遠隔教育について
・学校教育法改正について
実績について

⑤

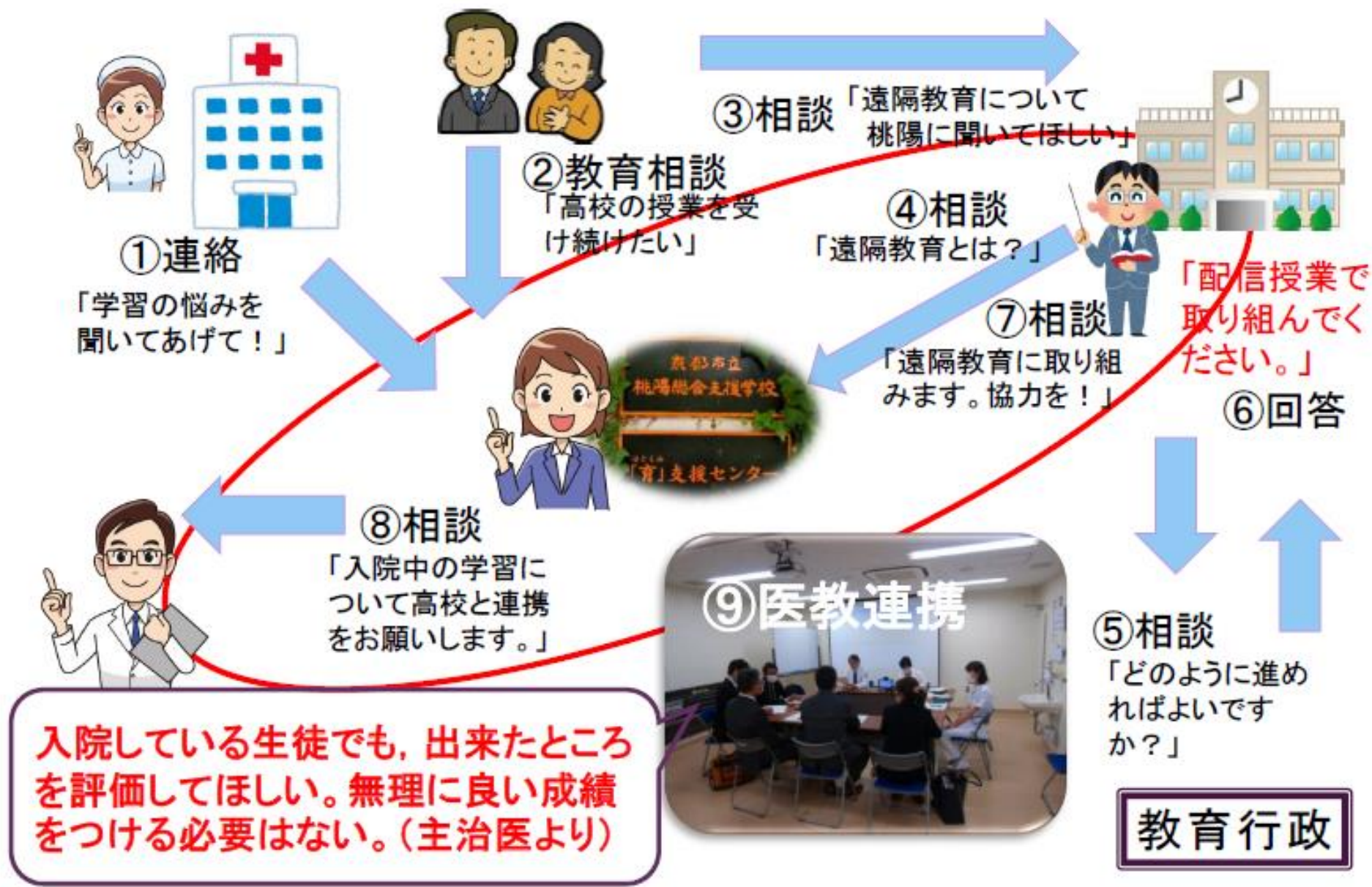
⑥ 連携
・配信方法相談
・病院側支援

② 情報提供
⑥ 連携

「育」支援センター桃陽（医教連携コーディネーター）
関係機関連携のコーディネート

・当該生徒・保護者	○生徒「学習に関する希望」
・当該高校関係者	○高校「可能な学習支援」
・医療関係者	○医療「治療計画」

「医教連携コーディネーター」によるコーディネート



医療関係者と学校を繋ぐカンファレンスの コーディネーター

小児病棟と高校を繋いだカンファレンス



他病棟と高校を繋いだ カンファレンス



関係者が一堂に会したカンファレンス

センター機能を活用した関係機関の連携を図る